

科目名 アートプロデュース論

授業形態 講義

対象 全専攻  
1・2年

単位数 2

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 寺田 航

科目ナンバリング CAE2040B

学位授与方針との関係 DP②③

期間 後期

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

素晴らしい作品もチケットを買ってくださるお客様がいなければ成立しないので、チケットが売れない俳優や演奏家・演出家・脚本家をキャストイングすることは難しい。演技演奏が上手い、前例のない演出、才幹溢れる脚本家としても、そのことがキャストイング権を持つプロデューサーや出資者に評価されなければ配役に繋がらない。この講座では「キャストイング権を持つ側の立場」の目線に立って「演劇・コンサート・イベント等の企画制作基礎」を学ぶことを通じて、「他者からの評価を引き寄せる力」と、結果としての「稼ぐ力」を獲得していく。そのための具体的な学習内容として以下の3本柱で構成する。

- ・成長型マインドセット教育
- ・マーケティング・ブランディング基礎
- ・公演予算書作成と団体経営の基礎

授業の到達目標

- ・成長型マインドセット教育を通じて、非成長的な考え方を換え、行動を変え、手に入れる結果を変えることができる。
- ・マーケティング・ブランディング基礎を学んで、他者からの評価・キャストイングに繋がる戦略・戦術についての知識を得ることができる。
- ・公演予算書作成と団体経営の基礎を学んで、高額となる劇場費・文芸費・出演費・舞台技術費・制作費の相場価格や、複雑な著作権等の権利処理を把握し、低予算でもあきらめない作品製作に繋げ、利益が出る公演にして団体を成長させ、旗揚げ公演で終わらない団体にするための知識を得ることができる。

授業計画

1. 講義ガイダンス
2. マーケティング・ブランディング基礎
3. マーケティング・ブランディング基礎
4. マーケティング・ブランディング基礎
5. SNSマーケティング基礎
6. SNSマーケティング基礎
7. 予算書作成基礎
8. 予算書作成基礎
9. 予算書作成基礎
10. 団体経営基礎
11. 団体経営基礎
12. 団体経営基礎
13. 予算書作成実習

14. 予算書作成実習
  15. 講義総括・補強
- ※各講義、脳の準備運動的な感覚でマインドセット教育を行ってから本編に入る。  
※授業内容については、進行状況等により多少の前後が出ることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

この講座ではパワーポイント資料を使用した知識教育と、講師とディスカッションしながら諸課題を都度こなしていく実践教育を合わせたアクティブラーニングを行う。講義を重ねる中で、受講生の希望職種や思考パターンを講師が把握し、希望する将来像に近づくためのアドバイス・改善点を伝えていく。

授業時間外の学習

- ・講義内で配布する自己分析シートを都度行う。
  - ・他人より自分の方が評価をされるであろうことを見つける。
  - ・自分のセールスコピーを考え続ける。
  - ・変わっても良いから、講義の時点で卒業してやりたいこと・やりたいことを見つけておく。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・本・音楽・映画・イベント等、講義内で様々紹介していくので、その中で自分が興味を持ったものをチェックする。
- ・講義での使用資料は、基本プロジェクターで投影する。
- ・紙資料は必要に応じて講師が印刷して配布する。

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み60%、諸課題への取り組み40%の配分で総合的に判断する。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、諸課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、諸課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・諸課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・諸課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解せず、諸課題への取り組み・授業態度等に問題がある者）

科目名 青少年教育論

授業形態 講義

対象 全専攻  
1・2年

単位数 2

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

科目ナンバリング LIA1040B

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期

他専攻

履修条件

子どもならびに若者のための舞台芸術に深い関心があること。  
児童青少年教育における演劇の可能性への探求意欲があること。

授業の概要

世界の児童青少年の演劇事情を学ぶ。  
舞台芸術が児童青少年の発達にどのような影響を及ぼすのか学習・研究する。  
児童青少年のための舞台芸術作品の創作に挑戦する。

授業の到達目標

- ・世界の児童青少年演劇を学習し、その現状について説明できる。
- ・発達心理学の分野等で研究されている、舞台芸術が児童青少年に及ぼす影響を学習し、自らリサーチできる。
- ・これらの学習を経て、児童青少年のための演劇作品を創作することができる。

授業計画

1. 授業の導入：授業内容の説明と目標設定
2. Theatre for Young Audiences (TYA) とは何か
3. 乳児のための演劇
4. 幼児のための演劇
5. 青少年のための演劇
6. 世界のTYA
7. 児童青少年のための演劇ワークショップの可能性
8. 児童青少年のための演劇ワークショップを考案・発表
9. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について①基礎
10. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について②世界の研究成果
11. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について：リサーチの発表①前半（2回に分けて行う）
12. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について：リサーチの発表②後半

13. 作品創造①前半（2回に分けて行う）
  14. 作品創造②後半
  15. 総評
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

提出された課題に対し講評を行い、場合によってはフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・課題発表のためのリサーチを行う。作品の執筆に取り組む。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：必要に応じて授業時に配布。
- 参考書：必要に応じて授業時に配布。

成績評価

- 授業への取り組み・創造過程への関わり方80%、発表の内容20%の総合的評価。
- S 総合点が90点以上の者（授業への取り組み、創造過程への関わり方、発表の内容が大変高く評価できる）
- A 総合点が80点以上の者（授業への取り組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高く評価できる）
- B 総合点が60点以上の者（授業への取り組み、創造過程への関わり方、発表の内容が評価できる）
- C 総合点が50点以上の者（授業への取り組み、創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している）
- D 総合点が49点以下の者（授業への取り組み、創造過程への関わり方、各課題の発表が評価できない）



科目名 芸術空間論

授業形態

講義

対象

全専攻  
1・2年

単位数

2

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 健介

科目  
ナンバリング

LIA2012B

学位授与方針  
との関係

DP①③

期間

後期

他専攻

—

—

● 履修条件

舞台空間の歴史に興味があること。

● 授業の概要

舞台空間の歴史を舞台美術家の視点で解説する。ギリシア悲劇、聖史劇、ルネサンス演劇、近代演劇等を舞台空間という視点で捉え直していく。

前半では西洋と日本の舞台空間の歴史を大まかに説明していく。後半では各テーマに添いながら舞台空間に起こった出来事とその変化を探っていく。

過去の出来事とつなげながら、現代から未来への舞台空間の考察へとつなげる。

● 授業の到達目標

- ・古代ギリシアから現代までの舞台空間の大まかな流れを理解できる。
- ・舞台空間と戯曲、演技、演出等がどのような関わりを持っていたかを理解できる。
- ・未来の舞台空間がどのように変化していくかの想像力を持つことができる。

● 授業計画

1. イントロダクション：なぜ私は舞台美術家を目指したのか？
2. 舞台空間の流れを掴む①古代ギリシア～ルネサンス
3. 舞台空間の流れを掴む②バロック～近代
4. 舞台空間の流れを掴む③日本編（猿楽～能楽）
5. 舞台空間の流れを掴む④日本編（歌舞伎～新劇）
6. 舞台空間の流れを掴む⑤現代の舞台空間
7. 舞台の額縁はなぜ生まれたのか？
8. 客席はなぜ暗くなったのか？
9. リアルな舞台装置はなぜ登場したのか？

10. 何もない空間とは何か？

11. 舞台美術と映画美術は何が違うのか？

12. 2.5次元舞台は何を変えたのか？

13. パフォーミングスペースとは何か？

14. 未来の舞台空間は何が変わるのか？

15. フィードバック

● 学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート・課題発表時にフィードバックを行う。

● 授業時間外の学習

中学程度の日本史・世界史をおさらいしておくこと。  
これらの学修に60時間以上を要する。

● 教科書・参考書等

授業時に毎回プリントを配布。

● 成績評価

授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者



科目名 音楽基礎演習—バロック・ダンス

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻  
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 浜中 康子

科目ナンバリング MUS1200M

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

音1必修。

授業の概要

17世紀初めの頃から18世紀半ばにかけてフランス宮廷を中心に栄え、ヨーロッパ中に広まっていったダンスをバロック・ダンスと称する。メヌエットやガヴオット等がその代表的なものであり、日頃演奏や鑑賞を通して関わっているこれらのバロック舞曲を、実際のダンス・ステップを通して体験する。バロック・ダンスのステップや踊り方は、現存する舞踏譜やダンス教本によって300年以上経たず、再現することができる。これらの読み方についても触れ、音楽とダンスの歴史的及び運動的関連性を明らかにする。  
ダンスの実習と共に、器楽で舞曲を演奏し、実際にダンスの伴奏を試みたい。

授業の到達目標

様々な舞曲の中でプレ、メヌエット、カヴオットを発表できるように仕上げる事ができる。

授業計画

1. バロックダンスについての概説/テクニックの基礎(ポジション他)
2. 歴史的背景/テクニックの基礎
3. プレの基本的ステップ(音楽と動きのアクセントの関係)
4. プレとメヌエットの基本ステップ①舞踏譜の読み方
5. プレとメヌエットの基本ステップ②舞踏譜の読み方
6. プレ①舞踏譜に記述された振付を踊る
7. プレ②舞踏譜に記述された振付を踊る
8. 発表/プレのダンスと共に舞踏上の音楽を演奏する
9. メヌエット①基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
10. メヌエット②基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
11. メヌエット③宮廷舞踏のマナーを踏まえて踊る(お辞儀/エスコートの方法)
12. メヌエットのまとめ①ガヴオットのステップと練習
13. メヌエットのまとめ②ガヴオットのステップを舞踏譜の振付で踊る
14. メヌエット、ガヴオットの仕上げ/サラバンドやジグについて
15. メヌエット、ガヴオットの発表/サラバンドやジグについて

順序や内容は、履修者の能力や進度に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

実技発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- ・授業中は知的な理解に留まることも身体表現としてスムーズに行えるように、ステップ名と動きを結びつけながらリピート練習すること。
- ・下記教科書「舞曲は踊る…」に記載されているQRコードを通して視聴できる動画を模範にして復習すること。
- ・様々な作曲家・時代の舞曲を数多く演奏・鑑賞すること。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

書籍：浜中康子「舞曲は踊る—バッハを弾くためのバロック・ダンス入門」(音楽之友社)  
DVD：浜中康子監修「フランス宮廷の華『バロック・ダンスへの招待』I・II」(音楽之友社)  
服装：膝の曲げ伸ばしが行きやすいパンツまたはスカート(タイトスカート不可)、ダンスシューズ使用

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み50%、実技発表30%、レポート20%を総合的に評価する
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 演奏会制作法

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻  
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 伊藤 直樹

科目ナンバリング MUS2100M

学位授与方針との関係 DP③④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

1年生後期の選択科目。演奏会等の企画・制作に興味があり、自らの音楽活動に役立てたい学生。

授業の概要

文化ホール等で行う演奏会は、企画から実施まで細やかな行程のもとに実施されている。本授業では、演奏会実施の目的や意図を明確にした上で、企画から予算作成、公演実施に至るまでの基礎知識を学び、各々が企画書を作成し、発表・考察を行う。

授業の到達目標

演奏会を企画・実施するまでの内容や行程を理解し、演奏会の企画ができる。

授業計画

1. ガイダンス(授業内容と目的、基礎アンケート)
2. 演奏会の必要性について(オンラインにより課題)
3. 演奏会の必要性と公金投入、企画書①の作成(オンラインにより解説)
4. 演奏会の企画に必要な事項、アウトリーチについて
5. 企画書②の作成について(オンラインにより課題)
6. 楽曲使用料、企画概要書の作成について(オンラインにより解説、資料配布)
7. 演奏会実施までのスケジュールと内容、企画書②発表・考察(1)
8. 劇場の仕組み、消防法等による規制について(オンラインにより解説、資料配布)
9. 舞台進行について(オンラインにより解説、資料配布)
10. 企画書②発表・考察(2)
11. 舞台用語の解説、舞台図についての解説(オンラインにより解説、資料配布)

12. 企画書③の作成について(オンラインにより課題)
13. 企画書③の詳細について、企画書③の作成
14. 企画書③の作成
15. 企画書③発表考察、授業まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

企画書提出後、講評を行う。

授業時間外の学習

- ・自身が生まれ育った地に在る文化ホール等の規模、運営状況等について調査すること。
- ・興味のある文化施設の運営状況等について調査すること。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料を授業時に配布する。

成績評価

- 成績評価について、授業への取り組み姿勢30%、企画書等の提出物70%で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を理解し、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容をある程度理解し、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解せず、課題への取り組みが不十分、企画書未提出の者)



科目名 管楽アンサンブルA I b / B I

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻  
1・2年

単位数 1

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 津川 美佐子

科目ナンバリング MUS1243M/  
3243M

学位授与方針  
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻

#### 履修条件

管楽器専修 (Tr・Tb・Tub・Sx専修以外) 必修。  
1年生はF1専修以外の学生を対象とする。

#### 授業の概要

木管五重奏を中心に学習していく。各々パート譜をよく読み、5種類の楽器の音色を聞き合い、受け止め、合奏の基礎を学ぶ。

#### 授業の到達目標

作曲家、曲目の背景を自身で調べ、スコアも読んで勉強し、メンバーで音楽を作ることができる。また、他の楽器の特徴を学ぶことができる。

#### 授業計画

1. 授業内容説明と曲目の選択 (前期は古典を中心とする)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③
5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩
12. 演奏実習⑪

13. 演奏実習⑫

14. 演奏実習⑬

15. 前期の曲の通し演奏

※学生の状況により、曲目を考え、学生の希望も取り入れていく。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

随時、その場で行う。

#### 授業時間外の学習

事前にパートの譜読み、練習をしておくこと。また、分奏しておくことが望ましい。

これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

特になし。

#### 成績評価

授業への取り組み姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者

科目名 管楽アンサンブルA II b / B II

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻  
1・2年

単位数 1

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 津川 美佐子

科目ナンバリング MUS2243M/  
4243M

学位授与方針  
との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻

#### 履修条件

管楽器専修 (Tr・Tb・Tub・Sx専修以外) 必修。  
1年生はF1専修以外の学生を対象とする。  
前期のIの単位を修得していること。

#### 授業の概要

木管五重奏を中心に学習していく。各々パート譜をよく読み、5種類の楽器の音色を聞き合い、受け止め、合奏の基礎を学ぶ。

#### 授業の到達目標

作曲家、曲目の背景を自身で調べ、スコアも読んで勉強し、メンバーで音楽を作ることができる。また、他の楽器の特徴を学ぶことができる。

#### 授業計画

1. 後期曲目説明と選択 (近代作曲家の曲も取り入れる)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③
5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩

12. 演奏実習⑪

13. 演奏実習⑫

14. 演奏実習⑬

15. 発表会をもって、試験の代わりとする

※学生の状況により、曲目を考え、学生の希望も取り入れていく。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

随時、その場で行う。

#### 授業時間外の学習

事前にパートの譜読み、練習をしておくこと。また、分奏しておくことが望ましい。

これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

特になし。

#### 成績評価

授業への取り組み姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者



科目名 音楽マネジメント

授業形態

講義

対象 音楽専攻  
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 楠瀬 寿賀子

科目  
ナンバリング MUS3000M

学位授与方針  
との関係 DP③④

期間 前期

他専攻

—

#### 履修条件

音楽や音楽家の社会的な役割を踏まえて、コンサートやアウトリーチの企画を考察する意欲を持つ者。

#### 授業の概要

芸術音楽の制作のノウハウやスキルを学ぶだけでなく、音楽が自らの生きる力を高めるため、また、それによって生まれる豊かな社会を創出する、という考え方に基づいた音楽マネジメントが重要となる。この授業では、基本的にはマネジメントの様々なシーンで使える考え方やスキルを学んでいくが、その背景にある音楽の社会的役割の重要性を深く考察し、グループディスカッションやワークショップの形態も交えながら、その考えに即した実施方法を学ぶ。

#### 授業の到達目標

積極的な興味・関心をもとに豊かな知識やスキルを得て、自らが社会におけるニーズに応えられるようになること。

- ・音楽の企画制作の基礎的な能力を身につけることができる。
- ・言葉にしにくい音楽・芸術を扱う上で必要な言語化の力を身につけることができる。
- ・アウトリーチやワークショップ等の手法を理解することができる。

#### 授業計画

1. オリエンテーションと自己紹介、講義全体の概説
2. 音楽マネジメントとは何か
3. コンサートのビジネス的側面
4. 音を聴く、とはどのようなことか
5. 音楽企画の社会性
6. 社会性を手法（アウトリーチやワークショップ等）
7. アウトリーチを体験する
8. アウトリーチで何が出来るか、を考える
9. 音楽家の才能を引き出す
10. 広報と宣伝について
11. 企画の作り方①グループディスカッション
12. 企画の作り方②ワークショップ

13. 企画の作り方③企画を提案する
14. 企画の作り方④企画発表
15. 授業の総括

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

課題提出や企画発表後に講評を行い、必要に応じてその後の授業の中で振り返りを行う。

#### 授業時間外の学習

様々なコンセプトや構成のコンサートにできるだけ足を運び、運営者の立場での観察に努めてほしい。マスコミやネット等で話題になる音楽や音楽事業、文化会館の動向等に関するニュースに注意を払い、些細なことでもよいので知識や考察の引き出しを増やすことに努めてほしい。

これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

教科書は使用せず、授業時にプリントを配付。参考書等も授業内で適宜紹介する。

#### 成績評価

筆記試験は行わないが、小論文課題を提出してもらう。評価は小論文50点、日常のレポートや発言等50点として採点する。

S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 演奏解釈 (2) 声楽曲

授業形態

講義

対象 音楽専攻  
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 相田 麻純

科目  
ナンバリング MUS3002M

学位授与方針  
との関係 DP①②

期間 前期

他専攻

—

#### 履修条件

声楽専修必修。他専修も積極的に履修してほしい。

#### 授業の概要

声楽が他の演奏分野と決定的に違うのは、音楽に言葉が付属している点にある。この授業では歌詞の理解と、その歌詞に音楽をつけた作曲家の意図を探っていく。歌唱する上で声を鍛錬することは重要だが、音楽表現を追究することも同様にとっても大切なことである。ただ歌うだけの演奏ではなく、きちんと曲を理解することで、演奏する上での表現力を引き出すプロセスを一緒に学んでいく。

前半は全4期に分類されている日本歌曲の作曲家の作品を取り上げ、後半はオペラの代表的作品であるモーツァルト作曲の《フィガロの結婚》を登場人物に分けて解釈していく。

#### 授業の到達目標

楽譜と歌詞の両面から理解を深めることで、曲に込められた想いを読み取り、演奏する上での土台を作れるようになることができる。

#### 授業計画

1. 導入：日本歌曲の変遷について、担当曲決め
2. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品①瀧廉太郎
3. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品②第1期のその他の作曲家
4. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品①山田耕筰
5. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品②第2期のその他の作曲家
6. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品①中田喜直
7. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品②第3期のその他の作曲家
8. 日本歌曲：第4期の代表的な作曲家と作品
9. オペラ：モーツァルト作曲《フィガロの結婚》における原作と台本
10. オペラ：フィガロの人物像と音楽
11. オペラ：スザンナの人物像と音楽

12. オペラ：伯爵の人物像と音楽
13. オペラ：伯爵夫人の人物像と音楽
14. オペラ：ケルビーノの人物像と音楽
15. オペラ：その他の役柄の人物像と音楽、授業の総括

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

課題提出・発表の際に、個別（グループ）に指導と総評を行う。

#### 授業時間外の学習

日本歌曲においては、1人1曲を担当し、作曲家と作詞家の関係性や歌詞の意味等を調べておくこと。オペラにおいては《フィガロの結婚》のあらすじや登場人物について予習しておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

授業時に毎回楽譜とプリントを配布する。

#### 成績評価

成績評価については、受講態度50%、課題に対する成果30%、レポート20%の結果を総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）  
A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）  
B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）  
C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）  
D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み・受講態等に問題がある者）



科目名 演奏解釈 (3) 室内楽曲

授業形態

講義

対象 音楽専攻  
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 寺岡 有希子

科目  
ナンバリング MUS3003M

学位授与方針  
との関係 DP①②

期間 前期

他専攻

#### 履修条件

弦楽器専修必修。他専修の履修も可。

#### 授業の概要

この授業は他の専修学生にも広く開放している。古典派の弦楽による室内楽作品を中心とするが、履修者の状況により、ピアノ、管楽器等も含まれる作品も取り上げ授業を進めていく。

授業形態としては学生の演奏を基本とし、作曲家とその作品に対してより知識を深め、「演奏」という実践にどのようにしたら結び付いていくか考えていく。学生全員参加の活発な意見交換の場になるよう、望んでいる。

#### 授業の到達目標

スコアから作曲家の意図するものをはじめ、様々なことを読み取ることができる。またそれらを表現につなげていくことができる。

#### 授業計画

ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンの弦楽による室内楽作品を基礎課題とするが、履修者の状況を考慮しつつ様々な形態（例えば、フルート四重奏曲やピアノ五重奏曲等）の室内楽作品を取り上げていく。

1. 導入および曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. 各グループによる研究発表と演奏：バッハ・ハイドン等①
4. 各グループによる研究発表と演奏：バッハ・ハイドン等②
5. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等①
6. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等②
7. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等③
8. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等④
9. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等⑤
10. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等①
11. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等②

12. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等③
13. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等④
14. 各グループによる研究発表と演奏：バルトーク等
15. 全体合奏

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏発表時に、個別（グループ）に指導・フィードバックを行う。

#### 授業時間外の学習

授業で演奏するメンバーは事前にリハーサルをしておくこと。また、その曲の作曲者についてや作曲された背景、各自の楽器の詳細についても調べておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

課題となる曲のスコアをプリントして配布するので、必ず授業に持参すること。

#### 成績評価

成績評価については、授業態度40%、課題への取り組み30%、発表・演奏への積極性30%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）



【芸術科演劇専攻】

科目名	身体トレーニングabcd	授業形態	実技(GL)	対象	演劇専攻 1年	単位数	1	実務経験	<input type="radio"/>	キャップ制 対象外
担当教員	山本 光二郎	科目 ナンバリング	THE1330T	学位授与方針 との関係	DP②④	期間	前期	他専攻	—	—

**履修条件**  
必修。カラダを動かすことを厭わない者。

**授業の概要**  
カラダで表現することに気付き、可能性を確かめる授業である。テクニックの習得もさることながら、受講者個人のカラダに対する許容範囲を広げることが目的とする。  
・カラダの柔軟性、カラダの持っているリズムを確認する。  
・ダンスカンパニーコンドルズの持つ不思議な世界を紹介する。そこから舞台人として自身の見せ方、見られ方を学ぶ。  
・楽器を使える人、声を使える人はコンテンポラリーダンスを自身のパフォーマンスと融合することを学ぶ。

**授業の到達目標**  
カラダを動かすことによって気付く自身の可能性を発見、認識、利用、表現することができる。

**授業計画**

1. 授業の導入。
2. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ①基本
3. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ②基本
4. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ③基本
5. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ④応用
6. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ⑤応用
7. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。  
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ①基本
8. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。  
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ②基本
9. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。  
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ③応用
10. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。  
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ④応用

11. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる①稽古
12. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる②稽古
13. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる③稽古
14. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる④仕上げ
15. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる⑤発表

**学生に対する教員からのフィードバック方法**  
授業ごとに、個々もしくはグループへの動き、演技、演出に対するフィードバックをする。

**授業時間外の学習**  
授業に参加するには健康であることが大前提であるので、日常的に怪我や病気に注意し、健やかな状態を維持すること。  
これらの学修に30時間以上を要する。

**教科書・参考書等**  
動きやすい、床に転がってもよい服装。裸足もしくは靴下。

**成績評価**  
授業への取り組み重視90%、レポート提出10%を100点に換算する。  
S: 90点以上の者  
A: 80点以上の者  
B: 60点以上の者  
C: 50点以上の者  
D: 49点以下の者

科目名	演劇特別演習 I ①②③	授業形態	演習(演技)	対象	演劇専攻 1年	単位数	1	実務経験	<input type="radio"/>	キャップ制 対象外
担当教員	鴻上 尚史	科目 ナンバリング	THE2232T	学位授与方針 との関係	DP②⑤	期間	後期	他専攻	—	—

**履修条件**  
やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとなくは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

**授業の概要**  
「正しい発声とは何か?」と「正しい身体とは何か?」を明確にする。そして、演技の基本であるスタニスラフスキー・システムをおさえる。

**授業の到達目標**  
舞台に立つにふさわしい声や身体、演技の考え方、アプローチの仕方を身につけることができる。

**授業計画**

1. 正しい発声とは何か?①呼吸について
2. 正しい発声とは何か?②共鳴について
3. 正しい発声とは何か?③丹田で支える
4. 正しい発声とは何か?④ベクトル
5. 正しい発声とは何か?⑤個人の声
6. 正しい身体とは何か?①身体の外側
7. 正しい身体とは何か?②身体の内側
8. 正しい身体とは何か?③リラックスとは
9. 正しい身体とは何か?④自由な身体
10. スタニスラフスキー・システムについて①マジック・イフ
11. スタニスラフスキー・システムについて②目的
12. スタニスラフスキー・システムについて③障害

13. スタニスラフスキー・システムについて④行動
14. スタニスラフスキー・システムについて⑤演技とは
15. 上手な演技とは何か?

**学生に対する教員からのフィードバック方法**  
適時、質問があればいつでも受け付ける。月曜日の放課後でも可。

**授業時間外の学習**  
授業内で、何をすればよいか適時伝える。  
これらの学修に30時間以上を要する。

**教科書・参考書等**  
参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「演劇入門」(集英社新書)、「演技と演出のレッスン」[発声と身体レッスン](白水社)である。  
が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

**成績評価**  
授業への取り組みおよび授業での参加態度100%で評価する。  
S 総合評価90点以上の者  
A 総合評価80点以上の者  
B 総合評価60点以上の者  
C 総合評価50点以上の者  
D 総合評価49点以下の者



科目名 狂言Ⅰ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻  
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 善竹 大二郎

科目  
ナンバリング THE2331T

学位授与方針  
との関係 DP①⑤

期間 後期

他専攻

—

#### 履修条件

特になし。音楽専攻日本音楽専修は必修。

#### 授業の概要

- ・丹田を意識した腹式呼吸を、狂言の謡から体得する。
- ・隙のない身体表現を、狂言の小舞を舞うことで体得する。
- ・狂言「附子」または「呼声」の実習で、狂言の演出や感情表現を学ぶ。

#### 授業の到達目標

- ・狂言の発声（日本古来の声の出し方）を身につけ、隙のない身体表現と狂言の感情表現を知ることができる。
- ・浴衣・袴の着付けを体得できる。

#### 授業計画

1. オリエンテーション：浴衣・袴の着付と「盃」の謡①
2. 「盃」の謡② 声楽と謡の違い
3. 「盃」の謡③ 「盃」の舞① 摺り足について
4. 「盃」の謡④ 「盃」の舞② 「泰山府君」の謡① 狂言の台本読み①
5. 「盃」の謡⑤ 「盃」の舞③ 「泰山府君」の謡② 狂言の台本読み②
6. 「盃」の舞④ 「泰山府君」の謡③ 「泰山府君」の舞① 狂言の台本読み③
7. 「盃」の舞⑤ 「泰山府君」の謡④ 「泰山府君」の舞② 狂言の台本読み④
8. 「泰山府君」の謡⑤ 「泰山府君」の舞③ 「土車」の謡① 狂言の立ち稽古①
9. 「泰山府君」の舞④ 「土車」の謡② 「土車」の舞① 狂言の立ち稽古②

10. 「土車」の謡③ 「土車」の舞② 狂言の立ち稽古③
11. 「土車」の謡④ 「土車」の舞③ 狂言の立ち稽古④
12. 「土車」の謡⑤ 「土車」の舞④ 狂言の立ち稽古⑤
13. 「土車」の舞⑤ 狂言の立ち稽古⑥
14. 狂言の立ち稽古⑦ 役決め
15. 謡と舞の復習 狂言の立ち稽古⑧

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少変更する場合があります。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパー・小テストにて、フィードバックを行う。

#### 授業時間外の学習

授業内容を踏まえ、自主練習を行うこと。  
これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

「狂言ハンドブック」(三省堂)

#### 成績評価

平常点（授業への取組み・受講態度）50%、実技点50%を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 演出論

授業形態 講義

対象 演劇専攻  
1・2年

単位数 2

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 川村 毅

科目  
ナンバリング THE2020T

学位授与方針  
との関係 DP①③

期間 後期集中

他専攻

#### 履修条件

特になし。

#### 授業の概要

戯曲のリーディングのシミュレーションを行い、演技と演出の知識と技術の幅を広げる。

#### 授業の到達目標

リーディングという表現行為の理解とそれを応用しての将来の展望を獲得できる。  
更に、それを通じて演出とは何かを理解することができる。

#### 授業計画

1. 川村毅「戯曲1」リーディングの実践
2. フィードバック①
3. 川村毅「戯曲2」リーディングの実践
4. フィードバック②
5. まとめ

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

リーディング後に随時、振り返りをする。

#### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習および復習をすること。  
これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

特になし。

#### 成績評価

受講態度60%、課題への積極性20%、課題の理解度20%にて総合的に評価する。

- S：90点以上の者
- A：80点以上の者
- B：60点以上の者
- C：50点以上の者
- D：49点以下の者



科目名 舞台照明実習①

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻  
1年

単位数 1

実務経験

キャリア制  
対象外

担当教員 石島 奈津子

科目  
ナンバリング THE1540T

学位授与方針  
との関係 DP②③

期間 前期集中

他専攻

#### 履修条件

照明部以外の学生を対象とする。

#### 授業の概要

- ・ 舞台照明の変遷
  - ・ 舞台照明の基本的な設備と配置
  - ・ 各種照明器材の説明
  - ・ 仕込みから撤去まで、照明の基本的な作業内容
  - ・ 照明デザインと表現者の関わり方
  - ・ 舞台上で作業する上での安全確保
- 以上のことを、実際に小劇場の機構を使用して実習する。

#### 授業の到達目標

- ・ 舞台の基本的な照明機構や機材を理解できる。
- ・ 舞台上における照明の効果を理解して、それを表現手段のひとつとして、利用することができる。
- ・ 舞台の設営作業の安全基準の現状を知ることによって、安全に対して意識を持ち、怪我や事故等から身を守ることができる。

#### 授業計画

小劇場を実際の舞台に見立て、照明器材を通常よく使われている位置に簡易に設置して、実物を前に説明したり、スポットに実際に接してその効果を体感・理解してもらう。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

実習時に、個別に必要なと思われるフィードバックを行う。

#### 授業時間外の学習

劇上演実習等の際、照明の存在を意識して、表現を深めるための効果を、照明を利用して得られる方法を検討してみる。  
これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

特になし。

#### 成績評価

以下の項目につき1項目25点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度②課題への取り組み③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解していなかった者、課題への取り組み・授業態度等に問題がある者)

科目名 舞台照明実習②

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻  
1年

単位数 1

実務経験

キャリア制  
対象外

担当教員 兼子 慎平

科目  
ナンバリング THE1541T

学位授与方針  
との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻

#### 履修条件

照明部の学生を対象とする。  
実習が主になるので、稽古着・稽古履等動きやすい服装で受講すること。  
また、(舞台)照明に興味があること。舞台照明作業に一度でも触れていることが望ましい。

#### 授業の概要

参加者全体で取り組む舞台照明の作業を通して、各々の協調性・自立性、またそのバランスのとり方を体で認識すること。そしてその認識を頭と体で昇華し、それぞれの段階で作業に「実践」してみるところまでを、この実習では求めることとする。作業の中で上記過程を繰り返すことにより、基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を学ぶことを目標とする。照明と演者の関係を考察してみる機会も提供する。

#### 授業の到達目標

基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を身につけることができる。

#### 授業計画

1. 照明の仕込み作業を学ぶ①(午前)
2. 演者と照明(スタッフワーク)の関わりについて(ディスカッションを含めた考察)
3. 照明の仕込み作業を学ぶ②(午後)
4. 特殊機材を扱う
5. 舞台照明(シーン)を作る
6. 質疑応答

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

実習終了時に、振り返りとして総評を行う。

#### 授業時間外の学習

舞台照明に触れる機会があれば積極的に参加してほしい。また、「良い演技」あるいは「良いスタッフワーク」とは何か、機会があれば考察してみる。  
これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

実習で使用する図面等は講義時に配布。  
藤井直「ステージ・舞台照明入門 舞台の基礎からDMX、ムービングまで」(リットーミュージック)  
小川昇「光のデッサンから舞台照明のつくり方まで」(レクラム社)  
石井強司「舞台美術・照明・音響効果篇(高校生のための実践演劇講座)」(白水社) 他

#### 成績評価

授業への取り組みと積極性60%、講義内容・作業への理解度40%にて総合的に評価する。

S 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められ、特にリーダーシップも発揮できる者

A 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められた者

B 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性どちらか一方でも認められた者

C 積極性にはやや欠けるが、講義内容を努めて真面目に理解しようと認められた者

D 積極性に欠け、講義内容も理解しようと認められなかった者



科目名 舞台音響実習①

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻  
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 こうじ

科目  
ナンバリング THE1542T

学位授与方針  
との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻

#### 履修条件

音響部以外の学生を対象とする。

#### 授業の概要

舞台における俳優が知っておくとよい音響の知識を学ぶ。音響的なことではなく、俳優視点の授業である。授業の最後に、実習を行う。

#### 授業の到達目標

- 音響の仕事、機器の扱いを理解することにより、スタッフの意図を汲み、よりクオリティの高い作品づくりを目指すことができる。
- 「伝える」ことの難しさを理解できる。

#### 授業計画

- 搬入、仕込み、サウンドチェックの見学
- ライブハウスPA、舞台音響、ミュージカル音響の違い
- スピーカーの向きの検証 (モニターの必要性)
- カラオケボックスでキーンとなるのは何故か (ハウリングの検証)
- 有線マイク、ワイヤレスマイク (ハンドマイク、ピンマイク) の取り扱い
- 実際に音を出して音響の仕事を紹介、その効果
- サンプラーの紹介 (刀の音、殴る、蹴る等の音を動きと合わせる音響効果)
- 実習 (チームごとに分かれ、テキストを上演する)
- 撤去

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

発表後、振り返りとして総評を行う。

#### 授業時間外の学習

実習で使用するプリントを事前配布するので、目を通し理解しておくこと。

#### 教科書・参考書等

プリントを配布する。筆記用具、舞台上で動けるようなシャツ、ズボン着用のこと。小劇場で作業をするために必要な上履き、運動靴着用のこと。

#### 成績評価

授業への取り組み50%、実習への取り組みと態度50%を100点換算して評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 舞台音響実習②

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻  
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 淳子

科目  
ナンバリング THE1543T

学位授与方針  
との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻

#### 履修条件

音響部の学生を対象とする。

#### 授業の概要

基本的な音響機材の使用方法、効果を知り、学内イベントや稽古でのセッティング、オペレートに役立てる。

#### 授業の到達目標

- 音響機材の信号の流れを理解し、基本的な結線がスピーディーに行うことができる。
- 簡単なトラブルシューティングができる。

#### 授業計画

- 機材の用途、機能を知る。
- ミキサー
- エフェクター
- 他、学生から前もって要望があれば応じる。
- ケーブルの名称を再確認、統一する。
- 信号の流れに沿った結線をする。
- 音が正常に出ない時の原因究明の方法。
- 仕込図 (配線図) を読めるようにする。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

授業後に、振り返りとして総評を行う。

#### 授業時間外の学習

適宜指示する。

#### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

#### 成績評価

実技試験70%、筆記試験30%で100点に換算。

- S 90点以上の者
- A 80点以上の者
- B 60点以上の者
- C 50点以上の者
- D 49点以下の者



【専攻科音楽専攻】

科目名 コード論Ⅱ

授業形態 講義 対象 専音1年 単位数 2 実務経験

担当教員 小林 真人

科目ナンバリング MUS1012MA 学位授与方針との関係 DP①② 期間 前期 他専攻

履修条件

コードの仕組みや活用に関心のある学生。  
「コード論Ⅰ」の単位を修得していること。

授業の概要

より多くのコードを覚え、ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏や作曲をする際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。  
譜面通りに演奏することだけでなく、コードを元にその場に応じて、どのように演奏（作曲も含め）したらよいか、自分自身で柔軟に創出できるようにする。  
コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

授業の到達目標

- コードを覚え、その構成音を把握し、自由に転回できる。
- メロディに対してコード付けできる。
- コードの機能と連結を理解して、それを元にコードの発展、応用ができるようにする。
- それらをピアノ等で演奏、表現できる。

授業計画

1. コード論 基礎編① コードの仕組み／3和音と4和音
2. コード論 基礎編② ダイアトニックコード／TSDの機能
3. コード論 基礎編③ ドミナントモーション／II m7-V7
4. コード論 基礎編④ セカンダリドミナントセブン
5. コード論 基礎編⑤ 同じ機能内の代理／V7とII b7
6. コード論 基礎編⑥ トニックとサブドミナントの代理コード
7. コードパターンとコード付け① 様々なコード進行（クリシェ等）
8. コードパターンとコード付け② 様々なコード進行（カノン進行等）

9. コード論 応用編① 代理コードの活用とリハモナイズ
10. コード論 応用編② テンション
11. コード論 応用編③ コードとリズムの関係
12. コード論 応用編④ コードと旋律（旋法）の関係
13. コードパターンとコード付け③ ブルース
14. コードパターンとコード付け④ 作曲への活用
15. 学習到達度の確認と総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート、課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

復習・予習をして授業に臨むこと。  
ピアノ等の和音が出せる楽器を使い、コードのサウンド感を「感覚的」に捉えられるようにする。  
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に、その都度プリントを渡す。

成績評価

授業態度（出席含む）50%、課題発表への取り組み姿勢・レポート等での総合評価50%。  
S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 室内楽研究B/D a

授業形態 演習(技術) 対象 専音1・2年 単位数 2 実務経験

担当教員 阪本 奈津子

科目ナンバリング MUS2242MA / 4242MA 学位授与方針との関係 DP④⑤ 期間 後期 他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

授業の到達目標

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

授業計画

1. 導入および曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品 モーツァルト①ピアノと弦楽器 二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレー징の注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性—弦楽四重奏曲
6. 音程について 純正律と平均律 ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い 弦楽器の室内楽作品
12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品
13. ドヴォルザーク① 国民楽派 関連する作曲家について 弦楽器の室内楽作品

14. ドヴォルザーク② ピアノを含む室内楽作品
  15. まとめと確認
- ※専攻楽器の種類によって、変更あり。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に個別（グループ）に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。  
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

成績評価については、受講態度40%、課題に取り組む姿勢40%、演奏成果20%の結果を総合的に判断して行う。  
S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。  
A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）。  
B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）。  
C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）。  
D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）。



科目名 室内楽研究B / Db

授業形態 演習(技術)

対象 専音  
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 藤沼 恵美子

科目ナンバリング MUS2242MA/  
4242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

#### 履修条件

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の学生も履修可。

#### 授業の概要

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。

アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や音楽の柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性を踏まえた上で、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な演奏技術や表現法を実践で学ぶ。

演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

#### 授業の到達目標

アンサンブルにおける奏法を修得し、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。

具体的には以下の点を到達目標とする。

- ・相手の音をよく聴き、呼吸を合わせることができる。
- ・各々の楽器との響きの融合を考えた音作りができる。
- ・表現のためのそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げることができる。
- ・楽曲の様式や作曲家の意図を踏まえた、より幅広い表現ができる。

#### 授業計画

1. オリエンテーションおよび曲目とメンバーの決定
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩
12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫

14. アンサンブル実習⑬

15. アンサンブル実習⑭

※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。  
※試験期間中に発表演奏会を行う。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に指導・フィードバックを行う。

#### 授業時間外の学習

自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。

事前に音源を聴いたり、スコアを見る等、他のパートにも目を向けておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

#### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・意欲70%、発表演奏の成果30%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み意欲、演奏能力が的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み意欲、演奏能力が的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、授業への取り組み・意欲、演奏能力等に問題がある者)

科目名 室内楽研究B / Dc

授業形態 演習(技術)

対象 専音  
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 吉岡 次郎

科目ナンバリング MUS2242MA/  
4242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

#### 履修条件

管楽器専修を中心とするが、他専修の受講も可。アンサンブル(管楽器+弦楽器、ピアノ等)に興味と意欲のある学生。

#### 授業の概要

フルートを中心とする二重奏~複数のアンサンブルを基盤に、レパートリー修得と室内楽での演奏法や基礎を学ぶ。

並びに、授業当日指定で初見のアンサンブル実習も催しそこで様々な対応力を学ぶ。

#### 授業の到達目標

個々の技術の更なる向上と、室内楽における他者との合わせ方、リードの仕方、協調性等を習得する。

初見練習においてはリズムや調性を瞬時に感じる力や、難しいパッセージに対応する力等を習得する。

#### 授業計画

1. 受講生の習熟度の確認と初見演奏について
2. 学習曲目の検討および組み合わせと初見演奏実習①
3. アンサンブル実習、初見実習②
4. アンサンブル実習、初見実習③
5. アンサンブル実習、初見実習④
6. アンサンブル実習、初見実習⑤
7. アンサンブル実習、初見実習⑥
8. アンサンブル実習、初見実習⑦
9. アンサンブル実習、初見実習⑧
10. アンサンブル実習、初見実習⑨
11. アンサンブル実習、初見実習⑩
12. アンサンブル実習、初見実習⑪

13. アンサンブル実習、初見実習⑫

14. アンサンブル実習、初見実習⑬

15. アンサンブル発表

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

各回の初見実習の発表後に総評を行い、必要な場合は個別にフィードバックを行う。

#### 授業時間外の学習

個々の練習と合わせを授業前に的確に行って準備しておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

必要に応じて教員より指示する。

#### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み70%、課題発表(発表演奏会)30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)



科目名 室内楽研究B / D d

授業形態 演奏(技術)

対象 専音  
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 菊池 奏絵

科目ナンバリング MUS2242MA/  
4242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

### 履修条件

楽譜を見ただけで正確に演奏するだけでなく、作品にふさわしい様式感、演奏習慣等に興味を持ち、様々な角度から視野を広げたい者。

### 授業の概要

本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、実践を通して学んでいく。時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現在の実践現場から見えてくる様々な方面からのアプローチを知り、アンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えていく可能性がある。演奏の実践を中心に進めるが、講義も取り入れながら総合的に学んでいく。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

### 授業の到達目標

バロック時代の音楽の演奏法を理解、習得し、どのように演奏したらその作品が生きるかを自分で考えることができる。また、バロック時代の影響を受けているその後の作曲家への理解も深まり、あらゆる時代の音楽と関連付けることができる。

### 授業計画

1. 歴史的知識に基づく演奏とは
2. 楽譜について
3. アンサンブル組み
4. バロック時代周辺の楽器について
5. 演奏習慣について
6. 通奏低音 ①数字の理解
7. 通奏低音 ②基本形
8. アンサンブル中間発表
9. 装飾法 ①フランス様式

10. 装飾法 ②イタリア様式
11. 舞曲、組曲について
12. 当時の文献を読む
13. 音楽修辭学について
14. アンサンブル仕上げ
15. 発表

### 学生に対する教員からのフィードバック方法

授業演奏時に個別、グループにアドバイス、フィードバックを行う。

### 授業時間外の学習

アンサンブル曲の情報収集を図書館等を利用して、自分なりにやってくる。個人練習、グループでの練習を十分にしておく。これらの学修に60時間以上を要する。

### 教科書・参考書等

プリントを配布。授業内で参考書を紹介する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、理解度25%、演奏の成果25%とし、総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者(積極的に取り組み、知識を自分のものにし、演奏に成果が表れる)
- A 総合点80点以上の者(積極的に取り組み、理解を深めようとし、演奏に変化が見られる)
- B 総合点60点以上の者(積極的に取り組み、演奏に生かそうとする)
- C 総合点50点以上の者(程よく取り組み、程よく演奏する)
- D 総合点49点以下の者(取り組み姿勢に欠け、演奏の変化が見られない)

科目名 ギター・アンサンブルC / D

授業形態 演習(技術)

対象 専音  
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 佐藤 紀雄

科目ナンバリング MUS2247MA/  
4247MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻

### 履修条件

ギター専修者必修。

### 授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

### 授業の到達目標

年2回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様式を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要な技術かを知ることができる。

### 授業計画

[前期]

1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得に向けた計画づくり
2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況を見る
3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴き合い理解しておく
8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
11. バンドゥークイッカン①各パートの難所の練習課題を見つける
12. バンドゥークイッカン②各パート同士の役割を理解する
13. バンドゥークイッカン③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
14. バンドゥークイッカン④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
15. バンドゥークイッカン⑤11～14を踏まえて表現を実現する

[後期]

1. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
2. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて他を聞く
3. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
4. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する

5. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. ヴィヴァルディ「四季より」[春]①この曲に必要な技術を準備する
12. ヴィヴァルディ「四季より」[春]②各パート毎に弾いて役割を理解する
13. ヴィヴァルディ「四季より」[春]③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
14. ヴィヴァルディ「四季より」[春]④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
15. ヴィヴァルディ「四季より」[春]⑤作品の中での自然の描写を豊かに再現する

### 学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏上、またはモチベーションの上で問題を抱えている学生には、個々に面談し解決する方法を探してゆく。一方でアンサンブルの上での問題を発見した場合は、皆で話し合う。

### 授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。これらの学修に60時間以上を要する。

### 教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み30%、課題への取り組み30%、期末試験40%にて総合的に判断して行う

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)



【専攻科演劇専攻】

科目名	劇作研究A (劇作論)	授業形態	講義	対象	専攻 1・2年	単位数	2	実務経験	<input type="checkbox"/>
担当教員	瀬戸山 美咲	科目ナンバリング	THE1010TA	学位授与方針との関係	DP③⑤	期間	前期	他専攻	—

**履修条件**  
 ドラマ演劇の構造を理解し、シノプシス(あらすじ)を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。「劇作研究B」と併せて履修することが望ましい。

**授業の概要**  
 ドラマ演劇の基本構造を理解し、物語の骨格となるログラインをつくり、シノプシス(あらすじ)を書き上げる。お互いのシノプシスを分析し、講評し合う。

**授業の到達目標**  
 ・戯曲の仕組みを理解し、分析できる。  
 ・長編戯曲のシノプシス(あらすじ)を書き上げることができる。

**授業計画**  
 1. 戯曲とは何か。映像の脚本との違いについて  
 2. ログライン発表①物語の種類について  
 3. ログライン発表②登場人物について  
 4. ログライン発表③構成について  
 5. 戯曲分析①既存の作品からシノプシスを書き起こす  
 6. 戯曲分析②既存の作品からシノプシスを書き起こす  
 7. シノプシス第一稿発表①  
 8. シノプシス第一稿発表②  
 9. シノプシス第一稿発表③  
 10. シノプシス第一稿発表④  
 11. シノプシス第二稿発表①  
 12. シノプシス第二稿発表②  
 13. シノプシス第二稿発表③  
 14. シノプシス第二稿発表④  
 15. まとめ

**学生に対する教員からのフィードバック方法**  
 発表の際、フィードバックを行う。

**授業時間外の学習**  
 ・様々な演劇や映画を見て、構造を分析する。  
 ・執筆のためのリサーチや取材をする。

**教科書・参考書等**  
 授業時に指示もしくは配布する。

**成績評価**  
 授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。  
 S 総合点が90点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出)  
 A 総合点が80点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出)  
 B 総合点が60点以上の者(ディスカッションに参加。戯曲を提出)  
 C 総合点が50点以上の者(授業に出席。戯曲を提出)  
 D 総合点が49点以下の者(出席日数が足りない等授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出)

科目名	劇作研究B (劇作演習)	授業形態	演習(理論)	対象	専攻 1・2年	単位数	1	実務経験	<input type="checkbox"/>
担当教員	瀬戸山 美咲	科目ナンバリング	THE2110TA	学位授与方針との関係	DP③⑤	期間	後期	他専攻	—

**履修条件**  
 長編戯曲を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。「劇作研究A」と併せて履修することが望ましい。

**授業の概要**  
 シノプシスをもとに戯曲を書き上げる。お互いの戯曲を分析し、講評し合う。

**授業の到達目標**  
 1時間半以上の長編戯曲を書き上げることができる。

**授業計画**  
 1. ログラインとシノプシスについて振り返り  
 2. セリフとト書きについて  
 3. 第一稿発表①  
 4. 第一稿発表②  
 5. 第一稿発表③  
 6. 第一稿発表④  
 7. 第二稿発表①  
 8. 第二稿発表②  
 9. 第二稿発表③  
 10. 第二稿発表④  
 11. 第三稿発表①  
 12. 第三稿発表②  
 13. 第三稿発表③  
 14. 第三稿発表④  
 15. まとめ

**学生に対する教員からのフィードバック方法**  
 発表の際、フィードバックを行う。

**授業時間外の学習**  
 ・様々な演劇や映画を見て、構造を分析する。  
 ・執筆のためのリサーチや取材をする。

**教科書・参考書等**  
 授業時に指示もしくは配布する。

**成績評価**  
 授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。  
 S 総合点が90点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出)  
 A 総合点が80点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出)  
 B 総合点が60点以上の者(ディスカッションに参加。戯曲を提出)  
 C 総合点が50点以上の者(授業に出席。戯曲を提出)  
 D 総合点が49点以下の者(出席日数が足りない等授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出)



科目名 演出研究

授業形態 講義 対象 専演 1・2年 単位数 2 実務経験

担当教員 小山 ゆうな

科目ナンバリング THE1020TA 学位授与方針との関係 DP④⑤ 期間 後期 他専攻

#### 履修条件

- ・ 授業時間外も準備をすること。
- ・ 演出に興味を持ち、積極的にグループワークに参加すること。

#### 授業の概要

古典・現代翻訳劇・現代日本語劇の3パターンの課題シーンを紹介。課題シーンまたは、自ら選んだシーンを使用し、演出プランを作成する。

演出の要である①戯曲解釈 ②多様なキャスト・スタッフの持ち味をいかに生かすか、の2点を中心にシーンを創作していく。

#### 授業の到達目標

- ・ 戯曲解釈の基本を習得できる。
- ・ シーンを立ち上げ、上演に向かうプロセスを合理的に進める力を養うことができる。
- ・ 演劇シーンへの意見の伝え方を学び、同時に他者の意見を自己の表現に活かす能力を養うことができる。

#### 授業計画

1. イントロダクション：演出の仕事について・戯曲解釈について・課題戯曲の紹介
2. 課題戯曲（古典・現代翻訳劇・現代日本語劇）の分析  
課題戯曲または生徒の選んだシーンを本読み・分析・戯曲の中のシーンの見つけ方
3. グループワーク 人物シートの作成・演出シート作成 本読み
4. シーン本読み 立ち稽古①
5. シーン立ち稽古②
6. シーン立ち稽古③
7. シーン立ち稽古④
8. シーン立ち稽古⑤
9. シーン発表リハーサル①
- 10・11. シーン発表リハーサル②
- 12・13. シーン発表① 互いのシーンへの合評
- 14・15. シーン発表② 互いのシーンへの合評

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・ 日々の稽古に対するコメント
- ・ シーン発表後、今後の課題と成果を個々にコメント

#### 授業時間外の学習

授業では複数の戯曲の抜粋を扱って実践的に創作していくため、受講生が事前に作品を読み全容を把握しておくことが望ましい。これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

必要な資料は授業時に配布する。

#### 成績評価

授業への取り組み20%、テキストへの理解10%、自らを研鑽する意欲10%、事前準備の度合い10%、成果発表への評価50%にて総合的に評価する。

- S：総合点90点以上の者
- A：総合点80点以上の者
- B：総合点60点以上の者
- C：総合点50点以上の者
- D：総合点49点以下の者

科目名 映像映画研究

授業形態 講義 対象 専演 1・2年 単位数 2 実務経験

担当教員 山岡 信貴

科目ナンバリング THE2002TA 学位授与方針との関係 DP①③ 期間 後期集中 他専攻

#### 履修条件

- ・ 長編映画を観たことがあれば、その他の条件は必要ない。

#### 授業の概要

映画の制作現場で行われていることやその効果の研究をベースにして、映画という表現手法がどのように成立しているかについて、歴史的経緯を含めて講義し、その中での俳優の役割がどうなっているかについてを並行して学ぶ。また、映画以外にも多様になってゆく映像表現全般についても考察してゆく。答えが必ずしもひとつではない内容を多数含んでいるため、授業テーマによっては、実践的な内容やディスカッションを導入することもある。

#### 授業の到達目標

「映画とは何か」を俯瞰しながら、映画制作現場の実際の流れを理解し、映像における演技の特徴やそれに対する取り組み方を事例を通して把握する。

#### 授業計画

1. 映画とはどのようにできているのか？
  2. 映画制作の概要
  3. 映画における俳優の役割
  4. 映画史における俳優の変遷
  5. 映画撮影の現場①
  6. 映画撮影の現場②
  7. カメラと俳優①
  8. カメラと俳優②
  9. 編集と俳優①
  10. 編集と俳優②
  11. 音声と俳優
  12. 映画における嘘
  13. 映画とテレビ
  14. 複製芸術
  15. 映画とは何か？
- ※授業の進行によっては、内容が前後する可能性がある。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

基本的には授業内で実施する。それが難しい内容の場合は、メール等で対応する。

#### 授業時間外の学習

必要に応じて都度指示を出す。基本的な方針としては、授業で理解したことや疑問に思ったことを意識しながら既存の映画を鑑賞し、気付いたことを授業のディスカッション等で提示する。これらの学修に60時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

授業では必要なし。以下は参考になる資料なので、授業とは関係なく読んだ方がよい。

ロバート・H・ヘスマン「リー・ストラスバーグとアクターズ・スタジオの俳優たち」(劇書房)

フランソワ・トリュフォー、アルフレッド・ヒッチコック「定本映画術ヒッチコック・トリュフォー」(晶文社)

ロベール・ブレッソン「シネマトグラフ覚書」(筑摩書房)

#### 成績評価

授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者（授業内容の理解と授業への取り組みが優れている者）
- A 総合点80点以上の者（授業内容の理解と授業への取り組みができていない者）
- B 総合点60点以上の者（授業内容の理解と授業への取り組みがほぼできていない者）
- C 総合点50点以上の者（授業内容の理解と授業への取り組みが不十分な者）
- D 総合点49点以下の者（授業内容の理解と授業への取り組みに問題がある者）



科目名 演技研究C (現代劇) (1) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング

THE1232TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻

#### 履修条件

積極的に取り組むこと。

#### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

#### 授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

#### 授業計画

1. 授業概要、進行の説明
2. 前期シーンワークの作品発表、作品についての話し合い
3. 本読み①話し合い
4. 本読み②話し合い
5. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ①
6. 読み合わせ②
7. 立ち稽古①空間の把握
8. 立ち稽古②台詞の目的化
9. 立ち稽古③台詞の目的化
10. 立ち稽古④台詞を自分の言葉にする
11. 立ち稽古⑤台詞を自分の言葉にする
12. 立ち稽古⑥台詞を身体から離す
13. 立ち稽古⑦台詞を身体から離す
14. 立ち稽古⑧形にする
15. 授業内発表

※授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

#### 授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。  
これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

#### 成績評価

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

- S ①～⑤で90%以上を獲得した者  
A ①～⑤で80%以上を獲得した者  
B ①～⑤で60%以上を獲得した者  
C ①～⑤で50%以上を獲得した者  
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演技研究C (現代劇) (2) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング

THE2232TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 後期

他専攻

#### 履修条件

積極的に取り組むこと。

#### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

#### 授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

#### 授業計画

1. 後期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
2. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ①
3. 読み合わせ②
4. 読み合わせ③
5. 立ち稽古①空間の把握
6. 立ち稽古②コミュニケーション
7. 立ち稽古③行動としての台詞
8. 立ち稽古④相手役を動かす
9. 立ち稽古⑤役にとってより負荷の大きい状況を選択していくということ
10. 立ち稽古⑥形にしてゆく ブロッキング
11. 立ち稽古⑦通し稽古
12. 立ち稽古⑧通し稽古
13. 立ち稽古⑨通し稽古
14. 後期発表
15. まとめ

※授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

#### 授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。  
これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

#### 成績評価

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

- S ①～⑤で90%以上を獲得した者  
A ①～⑤で80%以上を獲得した者  
B ①～⑤で60%以上を獲得した者  
C ①～⑤で50%以上を獲得した者  
D ①～⑤で49%以下だった者



科目名 演技研究C（現代劇）（1）2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング THE3232TA

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期

他専攻

#### 履修条件

積極的に取り組むこと。

#### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

#### 授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

#### 授業計画

1. 授業概要、進行の説明
  2. 前期シーンワークの作品発表、作品についての話し合い
  3. 本読み①話し合い
  4. 本読み②話し合い
  5. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ①
  6. 読み合わせ②
  7. 立ち稽古①空間の把握
  8. 立ち稽古②台詞の目的化
  9. 立ち稽古③台詞の目的化
  10. 立ち稽古④台詞を自分の言葉にする
  11. 立ち稽古⑤台詞を自分の言葉にする
  12. 立ち稽古⑥台詞を身体から離す
  13. 立ち稽古⑦台詞を身体から離す
  14. 立ち稽古⑧形にする
  15. 授業内発表
- ※授業内容はその進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

#### 授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

#### 成績評価

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。  
S ①～⑤で90%以上を獲得した者  
A ①～⑤で80%以上を獲得した者  
B ①～⑤で60%以上を獲得した者  
C ①～⑤で50%以上を獲得した者  
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演技研究C（現代劇）（2）2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング THE4232TA

学位授与方針との関係 DP②④

期間 後期

他専攻

#### 履修条件

積極的に取り組むこと。

#### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

#### 授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

#### 授業計画

1. 後期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
  2. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ
  3. 読み合わせ①
  4. 読み合わせ②
  5. 立ち稽古①空間の把握
  6. 立ち稽古②コミュニケーション
  7. 立ち稽古③行動としての台詞
  8. 立ち稽古④相手役を動かす
  9. 立ち稽古⑤役にとってより負荷の大きい状況を選択していくということ
  10. 立ち稽古⑥形にしてゆく ブロッキング
  11. 立ち稽古⑦通し稽古
  12. 立ち稽古⑧通し稽古
  13. 立ち稽古⑨通し稽古
  14. 後期発表
  15. まとめ
- ※授業内容はその進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

#### 学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

#### 授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

#### 教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

#### 成績評価

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。  
S ①～⑤で90%以上を獲得した者  
A ①～⑤で80%以上を獲得した者  
B ①～⑤で60%以上を獲得した者  
C ①～⑤で50%以上を獲得した者  
D ①～⑤で49%以下だった者



科目名 演劇特別研究 (1) ①②

授業形態 演習(演技)

対象

専演  
1・2年

単位数 1

実務経験

担当教員 眞鍋 卓嗣

科目ナンバリング THE1234TA

学位授与方針との関係 DP①④

期間 前期

他専攻

履修条件

授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。稽古着・運動靴を必ず着用すること。授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出すること。

授業の概要

演技基礎を他者との交流の視点から学ぶ。様々なトレーニングを施し、それがどのように実演技に結びついているかを、戯曲の一場面を使って検証する。

授業の到達目標

- ・専門俳優・表現者に必要な他者との交流の本質を探求し、向上することができる。
- ・他者との交流の重要性を知ること、集団における協働性を向上することができる。
- ・戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。

授業計画

1. トレーニング：交流①
2. トレーニング：交流②
3. トレーニング：交流③
4. トレーニング：与えられた状況の中の自分①
5. トレーニング：与えられた状況の中の自分②
6. トレーニング：与えられた状況の中の自分③
7. 戯曲読解
8. 役へのアプローチの仕方、読み合わせ
9. 読み合わせ
10. セリフの覚え方
11. 実演①
12. 実演②

13. 実演③
14. 実演④
15. 前期の総括、ディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- ・授業内容をノートに書き、疑問点や理解したこと等をまとめること。
  - ・与えられた宿題をやってこること。
  - ・実演する場合の道具や衣装等を用意すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時に配布（戯曲の一場面）

成績評価

授業の取り組み50%、課題の成果30%、レポートの内容20%にて、総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果が特によく見られ、授業への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果がよく見られ、授業への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が良好であった者、または取り組みが的確だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が不十分だった者、または取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、取り組みに問題があった者）

科目名 演劇特別研究 (2) ①②

授業形態 演習(演技)

対象

専演  
1・2年

単位数 1

実務経験

担当教員 眞鍋 卓嗣

科目ナンバリング THE2234TA

学位授与方針との関係 DP①④

期間 後期

他専攻

履修条件

授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。稽古着・運動靴を必ず着用すること。授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出すること。

授業の概要

他者との交流の視点から演技基礎を学ぶ。それがどのように実演技に結びついているかを、戯曲の一場面を使って検証する。前期で学んだことを生かし、より実践的な内容とする。

授業の到達目標

- ・専門俳優・表現者に必要な他者との交流の本質を探求し、向上することができる。
- ・他者との交流の重要性を知ること、集団における協働性の向上をすることができる。
- ・戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。
- ・プロの現場で行われているアプローチの仕方を学び、専門俳優・表現者として向上することができる。

授業計画

1. 戯曲読解・読み合せ①
2. 戯曲読解・読み合せ②
3. 戯曲読解・読み合せ③
4. 戯曲読解・読み合せ④
5. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ①
6. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ②
7. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ③
8. 立ち稽古①
9. 立ち稽古②
10. 立ち稽古③

11. 立ち稽古④
12. 立ち稽古⑤
13. 発表①
14. 発表②
15. 後期の総括、ディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- ・授業内容をノートに書き、疑問点や理解したこと等をまとめること。
  - ・与えられた宿題をやってこること。
  - ・実演する場合の道具や衣装等を用意すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時に配布（戯曲の一場面）

成績評価

授業の取り組み50%、課題の成果30%、レポートの内容20%にて、総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果が特によく見られ、授業への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果がよく見られ、授業への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が良好であった者、または取り組みが的確だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が不十分だった者、または取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、取り組みに問題があった者）



科目名 ワークショップA (2) / B (2)

授業形態 実習 (WS)

対象 専演  
1・2年

単位数 1

実務経験 〇/—

担当教員 A: 日澤 雄介 / B: 佐藤 信

科目ナンバリング THE2630TA/  
THE4630TA

学位授与方針  
との関係 DP④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。

### 授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各1回ずつワークショップを行う。  
授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また、事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

### 授業の到達目標

- 演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- 修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる。(専攻科2年)

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②
7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤

10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・ 個々への演技指導時の言葉
- ・ グループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

### 授業時間外の学習

30時間以上の時間外学習をすること。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 舞踊B (コンテンポラリー)

授業形態 実技 (GL)

対象 専演  
1・2年

単位数 1

実務経験 〇

担当教員 勝倉 寧子

科目ナンバリング DNC1340TA

学位授与方針  
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻 —

### 履修条件

専攻科1・2年における選択科目。  
経験の有無に関わらずコンテンポラリー・ダンスに興味があり、身体表現の習得に意欲的であること。

### 授業の概要

同時代のダンスという意味のコンテンポラリー・ダンスは、バレエにはない動きで表現の幅を大きく広げたモダンダンスよりもさらに新しい、最先端を行くダンスである。スキルフルで洗練され、アクロバティックで重力を利用した美しい脱力が特徴的。舞台芸術の中でも心とからだの密接な関係を深く実感できる、実に魅力的な身体表現である。

コンテンポラリー・ダンスの中でも、バレエ・モダン・ジャズ・シアター・舞踏等あらゆるダンスを理解した上に成り立つ技法は、演劇においても質の高い身体表現を可能にするために大いに有効である。

この授業では、まずコンテンポラリー・ダンスのテクニカルトレーニングを積むことでからだを意志通りにコントロールできる能力を養う。応用ではテーマごとの実践を通して確かな技能、実践に役立つ表現力を身につけていく。

### 授業の到達目標

- ・ コンテンポラリー・ダンスの理解を深め、その技術を習得できる。
- ・ プロの俳優として適用するからだをつくることができる。
- ・ 演じる上で、身体を使った感情表現がスムーズに行うことができる。
- ・ プロの演出家、振付家の要求に対応し得る基礎技術、応用力を身につけることができる。
- ・ 自作自演を可能にする創作力・演出力を身につけることができる。
- ・ 全プログラムを修了することで、協調性・距離感・空間認知能力・プランニング力を高めることができる。

### 授業計画

#### 【基礎トレーニング】

1. ストレッチ、スウィング&リリース、呼吸法、筋力強化 (インナー、アウター、体幹)
2. アライメント (姿勢の矯正、正確なポジショニング)、重心移動 (基礎)
3. 重力のコントロール: フォール&リバウンド、リカバリー、サスペンション・動きのリーダー・フロアーワーク
4. 基礎テクニック1.~3.の理解度、動きを中間チェック
5. 動きを伴う重心移動: ステップバリエーション、フロアー+ジャンプ&ターン
6. テクニック応用: ダイナミックな3次元的空間使いの実践

### 【応用】

7. フレーズを踊る①舞踊身体表現の実践: まとまった長さの振付を覚える
8. フレーズを踊る②舞台空間の使い方、緩急の配分、他者との関わり
9. フレーズを踊る③感情を伴う表現: 音楽、シチュエーション設定による実践
10. ダンスにおける距離感 (音楽と感情、空間認知)、協調性 (他者との関わり方)
11. 小道具を踊りのパートナーとして用いるプロップダンスの実践
12. プロップダンスによるパフォーマンスの実践: グループごとに発表
13. インプロビゼーション①デットスペース: 他者の作り出す空間を利用したインプロ
14. インプロビゼーション②即興力: 新しい動きの生み出し方、手掛かりとなる手法
15. 授業の振り返り、実技試験 (自作自演) に関する説明

### 学生に対する教員からのフィードバック方法

作品発表の後に全員を集め個々の作品ごとに講評、最後に総評を行う。

### 授業時間外の学習

毎回授業で学んだテクニックは、次回の授業までに必ず復習しておくこと。予習課題には積極的に取り組み、次の授業までに準備しておくこと。日頃から創作 (実技試験) の素材となり得る音楽やテーマの情報収集に努めること。舞踊動画等を積極的に観ること。  
これらの学習に30時間以上を要する。

### 教科書・参考書等

稽古書はシンプルで動きやすいものが望ましい。  
基本的にシューズを履かずに進行。素足をカバーするための布製の履物や靴下等は着用可。

### 成績評価

- 授業の取り組み80%、課題に対する評価40%とし、総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者 (基本的な諸事項を十分に理解し、それらを的確に高い優れた身体表現を実現することができる)
- A 総合点が80点以上の者 (基本的な諸事項を十分に理解し、それらを明確に表現し応用できる身体能力を持っている)
- B 総合点が60点以上の者 (基本的な諸事項をほぼ理解し、それらを表現し応用できる身体能力を持っている)
- C 総合点が50点以上の者 (基本的な諸事項をある程度理解し、身体表現能力に向上が見られる)
- D 総合点が49点以下の者 (基本的な諸事項の理解に欠け、身体表現能力に向上が見られない)